

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No27

#2 生涯学習社会における大学の転換—近代学校を超えて— —辻本雅史先生(京都大学名誉教授、中部大学)にインタビュー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年幸生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



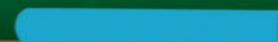
辻本 雅史

つじもと まさし

中部大学フェロー、京都大学名誉教授、中部大学名誉教授

京都大学文学部で日本史を、京都大学大学院教育学研究科（修士・博士課程）で教育史を学ぶ。文学博士（大阪大学）。光華女子大学・甲南女子大学・京都大学教授を経て、国立台湾大学教授（2012-2017）、中部大学教授・副学長（2017-2021）。

専攻領域は、教育史・日本思想史。主に江戸期の思想と教育を研究している。その立場から、近現代教育を相対化し、併せて来たるべき生涯学習社会を展望している。



No27

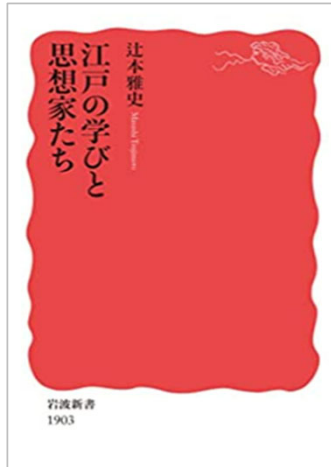
#1 教育を「江戸」から考える

一学びの身体化

辻本雅史先生(京都大学名誉教授、中部大学)にインタビュー



書籍のご紹介



『江戸の学びと思想家たち』
(岩波新書、2021)



『「学び」の復権—模倣と習熟—』
(角川書店、1999
[2021年岩波現代文庫に改版])

それではご覧ください

2. 今の「教育」 – 近代化と学校教育

- ▶ 学校教育：近代化/国民化過程で発明された制度
(西欧でも19C末ころ、日本とほぼ変わらない)
明治5年1872学制(開始) – 明治33年1900確立
- * 学校は**近代化に最適な教育制度**
 - ・ 国家による国民教育〈**国家が国民を教育する**〉制度
⇒ **国家主義教育**の宿命 ⇒ 義務教育:従順な国民/良質な労働力
 - ・ 近代は複雑で高度な社会：科学革命 ⇒ 技術,生産力
⇒ 近代社会を生きるに必要な**知識**と**能力**と良質な**労働力**
- ▼ 1945年までの教育目的 = **国家**

2-1. 1945-2000年の教育目的

➡ 【憲法と教育基本法】

➡ * **人格**の完成

➡ * **平和と民主的価値実現** (近代の普遍的価値理念)

〈理念の定着には身体感覚をねざす共感 = **身体化が必要**〉

○近代の普遍的価値理念形成の背景には

⇒キリスト教文化圏にねざす歴史と思想・文化がある

➡ * 本音としての**経済的価値**(豊かさ)

➡ * 2000年以降：**グローバル化・地球環境危機・パンデミック**

ク⇒「**一国主義**」破綻？

2-2. 近代学校の原理的特質

- ▶ 「**教え込み**」 子どもは教えることで学習する教授/学習観
 - * 背景に**教育学**：国民教育の**教師養成のための学**（19c前期成立）
- ▶ 「**いかに教えるか**」
 - ⇒教える主体(教師)の側から編成されたカリキュラム構成
cf. 「**いかに学ぶか**」江戸期の問い（学ぶ者が主体）
 - * 学校カリキュラム：〈**近代学問の知**〉に依拠
- ▶ **サイエンスモデル**の**学問体系**：言語化・数値化・理論化
 - * 大学は近代知の集積場 = 発達段階に応じた**カリキュラム設計**
 - * **教科**：小学校-大学まで**近代知の細分化した秩序体系の束**

3. 近代学校のシステムの**陥穽**

- ▶ 近代学校は**近代化に最適**：資本主義と科学主義の親和性
 - 科学主義： 〈**学びの身体性**〉 の欠落
 - 科学 = **対象に向かう知** - 原理上 〈**主体の心**〉 の欠落
 - 内面を根拠づける価値は？
- ▶ 1945以前は**国家** - 戦後は？ ⇒ **〈道徳教育〉** の困難さ
 - ・ 「**近代の知**」の前提にキリスト教文化
 - ・ 儒学（東洋思想）では「**天地自然**」
- 教育における**超越性**の問題
 - 自己の生を意味づける根源的価値が必要

4. 近代の終焉とメディア革命

■ 歴史的近代の終焉：資本主義変質（巨大IT企業集団GAFAM）

- ・ グローバル化→国民国家の限界（民族主義、宗教共同体、侵略戦争、地球環境危機）
- ・ 近代化路線は**地球環境危機**を招いた！

■ **メディア革命**：デジタル情報革命⇒**知の伝達メディア**の激変 ⇒**人間関係性変容**⇒**社会の変質**(文字と出版の後退 = 近代の後退)

■ **学校教育の限界**：3-40人の同一年齢学級集団、一斉授業システム － 学校教育の構図は明治初期と同じ－時代遅れ!!

* **学びのメディア**の多様化（学校以外のチャンネル）

➡ 学校教育極小化・残す**必要不可欠の要素**は何か？

[文字の読み書き計算 / 市民倫理規範 / 集団性 / 自己学習の方法]

4-1. 「学校困難」の時代

- ▶ 内面/心を埋める教育の困難（それを支える人間観・世界観の不在）⇒ **人間形成教育**の問題
 - ・ PISA型コンピテンシーでの修正
小手先の技術レベルで済まない本質的な**教育観転換**を
- ▶ メディア状況の激変-
学校教育の存在感低下 - 〈教え込み〉型学校教育の限界
- ▶ しかし近代以後の社会では、学校の **〈体系的な学び〉** は必要
- ▶ 「一国主義」の限界⇒教育は**一国で完結しない**
世界人類共通教育構想（**共通カリキュラム**）は可能か？

5. 近代終焉以後—生涯学習社会へ

- ▶ 近代の終焉：近代の価値観 [拡大/進歩] からの解放！
- ▶ 最先端の少子高齢化社会：
 - * 平均出生率 1.30 ('21) (近く出生数80万人割れ)
 - * 平均寿命 ('20) 女87.7歳 (世界1位)、男81.6歳 (2位)

○ 本来、生涯学習社会の**世界的モデル**創出すべき役割

○ 25歳以上の**大学学士課程在学率 2%**

リカレント教育立ち遅れ (伸びしろ?)

(2014・OECD平均20%弱、最下位、高い国は30%超)

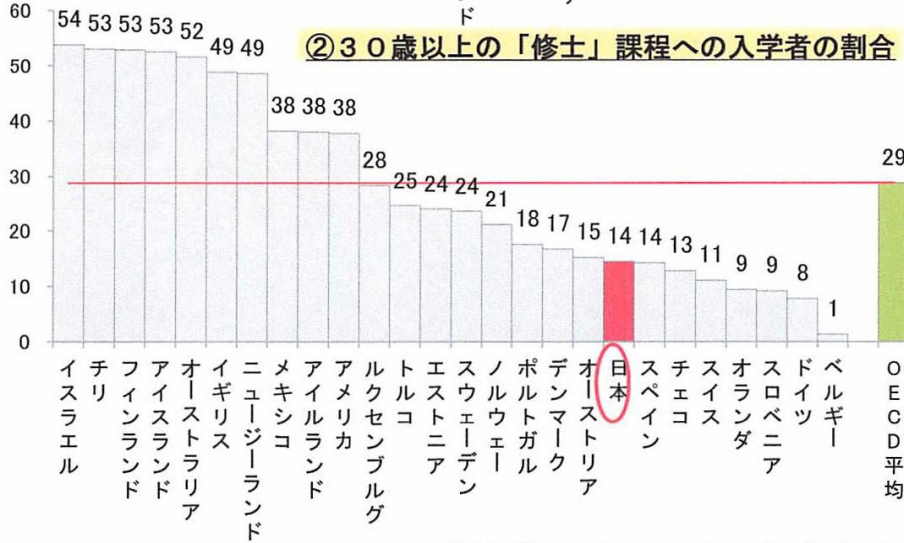
各国の高等教育における社会人入学者の割合(2014年)

日本の「学士」課程、「修士」課程及び「博士」課程における社会人入学者の割合は、低いものとどまっている。

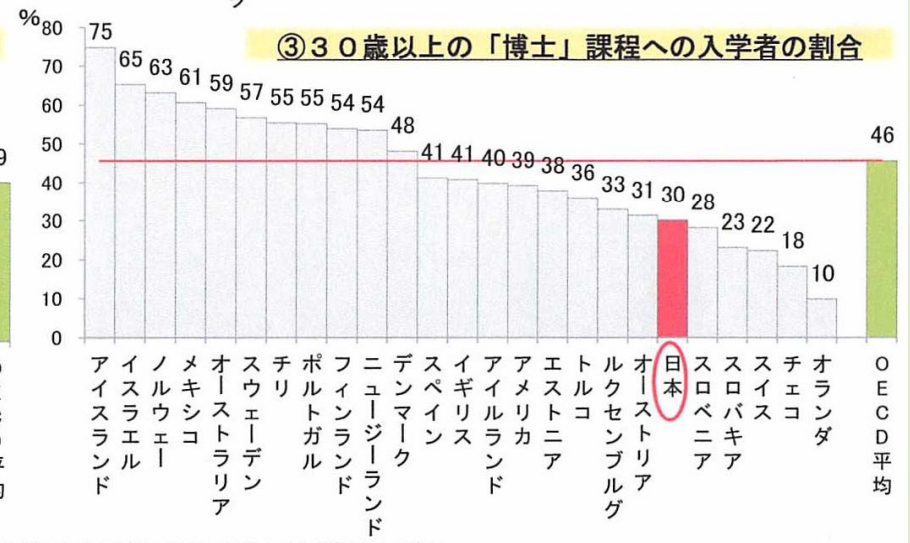
① 25歳以上の「学士」課程への入学者の割合



② 30歳以上の「修士」課程への入学者の割合



③ 30歳以上の「博士」課程への入学者の割合



出典: OECD Education at a Glance (2016)。留学生を除いた入学者に占める25歳又は30歳以上の割合

ただし、日本の数値については、①「学校基本統計」及び文部科学省調べによる社会人入学生数(留学生を含む)。

②「学校基本統計」による修士課程及び専門職学位課程への社会人入学生数の割合。(留学生を含む)

5-1. 江戸時代は生涯学習社会だった！

- ➡ 学校教育の制度がない社会
- ➡ 手習塾・学問塾・藩校・郷学
 - * 入退学・学齢・学年制なし
 - * 必要に応じ、必要な時に、必要なことを学ぶ
 - * 師弟の個別の人格的關係のみ
 - * 学びの意味が自明
- ➡ 「学び」の価値の普遍性（学んだぶん成長する）

5-2.生涯学習社会

【誰もが、いつでも、どこでも、学びたいときに学べる社会】

- ▶ 生涯学習社会に向け**教育の再定義**（初等・中等・高等教育も）
- ▶ 人間の土台を作る**幼児教育**に注力
- ▶ 初等-中等教育は**自らが学ぶ力**
 - * 自己学習能力・生涯学習の方法を学ぶ
- ▶ 大学は**リカレント教育**に注力
- ▶ **大学3回入学説**：
 - ① 18歳
 - ② 30-40歳代 既習事項の不適合⇒**最先端**の学び直し
社会現場での経験⇒**学ぶ課題**を発見、**目的意識と意欲**
 - ③ 60歳代：リタイア後や**高齢期**の学び、
オルタナティブな人生の学び

「学びの時代」復権！ 一貝原益軒と佐藤一斎の箴言

◆ 「学ぶを愉しむ」

貝原益軒 『楽訓』

◆ 少而學、則壯而有為、 壯而學、則老而不衰、 老而學、則死而不朽。

佐藤一斎 「三学戒」 『言志晩録』 60

少にして学べば則ち壯にして為すことあり、
壯にして学べば則ち老いて衰へず、
老にして学べば則ち死して朽ちず。

